

ミュージアム県 ながさき

4

2015年 春号
MUSEUMS IN NAGASAKI
PREFECTURE

特集 近代化遺産と ミュージアム

日本の近代化をリードした長崎
その歴史をミュージアムでたどる



ミュージアムの人々
ミュージアム逸品紹介
自慢の体験プログラム
建物探訪

MUSEUM★TOPICS



ミュージアム県ながさき vol.4 2015年3月発行 ©長崎県文化振興課 〒850-8570 長崎市江戸町2-13 TEL 095-895-2762 FAX 095-829-2336 http://nagasaki-bunkanet.jp

平成27年度 企画展等のご案内 *会期や内容は変更になることがあります。



長崎歴史文化博物館



「信徒発見」150周年記念事業
世界遺産推薦記念特別展
聖母が見守った奇跡
H27年2月19日(木)～4月15日(水)

LES ROSES
宮廷画家ルドゥーテの「バラ図譜」
4月25日(土)～6月21日(日)

PIECE OF PEACE
「レゴ®ブロック」で作った世界遺産展
IN NAGASAKI
7月18日(土)～8月31日(月)

ドイツと日本を結ぶもの
一日独修好150年の歴史(仮称)
9月19日(土)～11月29日(日)

ボードイン写真展(仮称)
12月12日(土)～H28年1月24日(日)

特別展 鶴亭(仮称)
2月6日(土)～3月27日(日)



鶴亭《葡萄群禽図》(部分)

〒850-0007 長崎市立山1丁目1番1号
TEL 095-818-8366
http://www.nmhc.jp/



長崎県美術館



ブラド美術館所蔵
スペイン黄金世紀の静物画
——ポデゴンの神秘
H27年4月23日(木)～7月26日(日)
常設展示室第1室

藤城清治展 聖なる光
4月1日(水)～5月31日(日)

スペインの彫刻家
フリオ・ゴンサレス展
6月7日(日)～7月20日(月・祝)

瀬戸内寂聴展
～これからを生きるあなたへ～
7月25日(土)～8月31日(月)

岡村剛一郎の
ダンボールアート遊園地(仮称)
8月12日(水)～8月31日(月)
県民ギャラリー

ミナ ペルホネン展(仮称)
10月10日(土)～12月6日(日)

中華人民共和国駐長崎総領事設立30周年記念
現代中国の美術
12月12日(土)～H28年1月31日(日)

ソフィ・カルー—最後のとき/最初のとき
2月6日(土)～3月21日(月・祝)

くまのプーさん展
3月12日(土)～4月17日(日)
県民ギャラリー



壱岐市立一支国博物館



壱岐ゆかりの芸術家たち展
H27年3月20日(金)～4月19日(日)

「壱岐名勝図誌」展(仮称)
4月28日(火)～6月28日(日)

よみがえった石ころたち展(仮称)
7月17日(金)～8月30日(日)

しまごと芸術祭2015(仮称)
10月2日(金)～11月29日(日)

ルーヴル美術館の銅版画展(仮称)
12月11日(金)～H28年2月14日(日)



常設展示室入口

〒811-5322 壱岐市芦辺町深江鶴亀触5-15-1
TEL 0920-45-2731
http://www.iki-haku.jp/

〒850-0862 長崎市出島町2-1
TEL 095-833-2110
http://www.nagasaki-museum.jp/

思わず旅したくなる歴史ガイドブック
長崎県企画「ながさき歴史発見・発信プロジェクト」

旅する長崎学

全21巻 各号648円(税込)
A5版/64ページ/オールカラー

- ◆ 1～6巻 キリシタン文化
- ◆ 7～10巻 近代化ものがたり
- ◆ 11～15巻 海の道
- ◆ 16～17巻 海の道(中国交流編)
- ◆ 18～21巻 歴史の道

お問い合わせ

- 「ながさき歴史発見・発信プロジェクト」について
長崎県文化振興課 TEL095-895-2762
- 『旅する長崎学』について
長崎文献社 TEL095-823-5247

ご購入方法

- お近くの書店でご注文
(取り寄せになる場合は、多少お時間がかかります)
- 出版社からご購入(送料・代金の振込手数料はお客様負担)
長崎文献社 TEL095-823-5247
- インターネットでご購入(大手書店、または長崎文献社の
ネットショッピングをご利用ください)



「明治日本の産業革命遺産
九州・山口と関連地域」を
世界遺産へ!



世界遺産登録実現を目指しています。
明治日本の産業革命遺産 検索
長崎県世界遺産登録推進課 TEL:095-894-3171



「長崎の教会群」を
世界遺産へ!

「長崎の教会群」を世界遺産へ! 検索



【特集】近代化遺産とミュージアム

日本の近代化をリードした長崎 その歴史をミュージアムでたどる

幕末から明治にかけて、日本は西洋の技術を導入し、短期間のうちに驚異的な発展を遂げました。この歴史は世界史においても類希なものであり、長崎を含めた九州・山口を中心とした近代化産業遺産群は「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産候補はあげられています。その中でも古代以来、海外交流の窓口であり続けてきた長崎県は、造船や石炭産業をはじめ、電信や銀行、水道事業など、あらゆる分野で全国の先陣を切る存在でした。そこで今回は、急速に近代化の道を突き進んだ日本の産業革命に大きな貢献を果たした長崎県の歴史を語る、県内各地のミュージアムをご紹介します。

長崎県には、歴史、民俗、美術、自然科学、産業などをテーマとした特色あるミュージアムが各地に数多くあります（H27年3月1日現在168施設）。本県では、平成22年度より、これらのミュージアムを地域の大切な資源として、より魅力ある地域づくりの「てこ」とするため、各施設の活性化と施設間の連携を進めていく「長崎県ミュージアム連携促進事業」を推進しています。

本情報誌は、この事業の一環として、県内所在のミュージアム各館の魅力と取組を、様々な角度から、皆様に広くご紹介するもので、平成25年2月に創刊しました。

本情報誌を、各施設の基本情報等を掲載するポータルサイト「ながさき歴史・文化ネット」(<http://nagasaki-bunkanet.jp>)（平成27年3月開設予定）ともあわせて、県民の皆様をはじめ、県外から観光等でお越しになられる皆様に気軽にご利用いただけましたら幸いです。

平成27年3月

長崎県文化観光物産局文化振興課

長崎県ミュージアム連携促進事業

長崎県内ミュージアム情報誌

ミュージアム県ながさき

vol.
4
2015年 春号
Contents

2	グラバー園
4	三菱重工業(株)長崎造船所史料館
6	軍艦島 軍艦島資料館
8	長崎市高島石炭資料館
9	長崎市外海歴史民俗資料館 西海市崎戸歴史民俗資料館
10	佐世保市世知原炭鉱資料館 調川民俗資料館
11	長崎大学附属図書館 長崎市上下水道局水道資料室
12	海底線史料館 長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館
13	[コラム]昭和四年の新聞で紹介された海底ケーブル保守
14	長崎市伊王島灯台記念館 樺島灯台資料館
15	十八銀行史料展示室 長崎歴史文化博物館
16	ミュージアム逸品紹介 新上五島町鯨賓館ミュージアム
17	ミュージアムの人々 長崎南山手美術館 さかきばら郷土史料館
19	自慢の体験プログラム 長崎バイオパーク
20	建物探訪 雲仙市歴史資料館国見展示館
21	MUSEUM★TOPICS

〔画像提供〕※掲載順

NPO法人 軍艦島を世界遺産にする会 理事長 坂本道徳氏（「端島銀座」（昭和46年7月）、「フランコで遊ぶ子どもたち」（昭和46年頃）、「35000トン出炭記念」（昭和40年代）、「ホタを積んだトロッコ」（昭和40年代）:p.7）

新上五島町鯨賓館ミュージアム（「幕府裁許状（有川湾捕絵図）」（元禄2年）、「幕府再裁許状」（元禄3年）、「クロミンククジラの骨格標本と実物大模型」:p.16）

長崎県世界遺産登録推進室（大浦天主堂外観: p.21）

浦上キリシタン資料館（展示室風景、所在地図: p.21）

長崎歴史文化博物館（500万人セレモニー風景: p.21、施設外観、鶴亭《葡萄群禽図》裏表紙）

長崎市世界遺産推進室（ジャイアント・カンテレパークレーン: 裏表紙）

長崎県美術館（施設外観、裏表紙）

壱岐市立一支国博物館（施設外観、常設展示室入口: 裏表紙）

写真表紙: 軍艦島

写真: 三菱重工業(株)長崎造船所

ミュージアム県ながさき 平成27年(2015)3月発行
企画・発行=長崎県文化振興課 デザイン=デザインスタジオ ヨンエフ
写真撮影=松尾順造 吉田隆 取材・編集=企画編集スタジオ ノンブル 印刷=(株)藤木博英社
本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載および複写を禁じます。



ブライアン・パークガフ二名誉園長

「神戸や横浜も洋館の町としてPRしていますが、長崎が老舗です」

「32年前、初めて長崎の南山手・東山手
を歩いたとき、不思議な懐かしさを覚え
ました。故郷のウイニベグ(カナダ)の19
世紀の街並とイメージが重なったので
す」と語るのは、グラバー園名誉園長の
ブライアン・パークガフ二氏。1972
年(昭和47)に来日。京都で僧侶の修行
をしていましたが、長崎の魅力にひか
れ、僧侶となる道を変更して長崎に移
住。居留地に関する研究などを行い、
『グラバー家の人々』など長崎に関す
る書物を何冊も手掛けています。
「旧グラバー住宅は、日本人の工が
日本の伝統的な建材を使って、西洋人
のニーズ、注文にあわせて造りました。
そのため、外観は瓦屋根で見る角度に
よっては日本風ですが、中は暖炉など

がある西洋風と
いう和洋折衷の
造りになってい
ます。人工的に
造ったものでは
なく、西洋と日
本がさりげなく
融合しているところがポイントです
ね。また、日本の近代化に大きく関わっ
たグラバーが住んでいたという意味で
も歴史的価値がある、世界遺産候補にな
るのは当然だと思います」
グラバーは、幕末から明治にかけて
造船・炭鉱・鉄道などのさまざまな分
野で日本の近代産業進展に寄与。幕末
の激動期には若し志士達を陰で支え
た明治維新の立役者でもあります。
「これからは、世界各国から歴史の
専門家たちも訪れるでしょう。そのた
めにも今後は、グラバーの功績や一家
の歴史についての調査・研究などを行
い、また建築学的な価値など、歴史を
語る場所としてのソフト面での整備
が必要だと思えます。訪れた人がタイ
ムスリップするような展示や演出がで
きればいいですね。」とパークガフ二氏。

「旧グラバー住宅」の
構造で興味深いのは、
ツル夫人の部屋横の廊
下天井裏につくられて
いる小さな部屋。板張
りの二間続きで襖があ
り窓がないため、いつ
の頃からか、幕末の志
士をかくまった隠し部
屋では?という伝説が真しやかに語ら
れるようになりましたが、パークガフ
二氏曰く、「幕末の志士たちと親交があ
ったことは確かですが、隠し部屋だっ
たという歴史的検証はなされてないん
です」とのこと。今後の調査が待たれる
ところです。
日当りの良い温室を通して、バルコニ
ーに出ると、グラバーも見えていたであ
る。長崎港の眺めが一望できます。



グラバー園

住所: 〒850-0931 長崎市南山手町8-1 TEL: 095-822-8223 URL: <http://www.glover-garden.jp/>

■開館時間 8:00~18:00(入園受付は17:40まで)。ゴールデンウィーク、夏季、クリスマスシーズンは
夜間開園を実施(※期間や時間は年度によって異なります)

■休館日 無休
■観覧料 一般610(510)円、高校生300(240)円、小中学生180(140)円
()内は15名以上の団体割引料金。そのほか各種減免有。

■駐車場 無し



室内にはグラバー愛用とも伝えられるスーツケースやステッキも展示している



日本瓦の中に立つ英国式暖炉の煙突



婦人部屋の廊下天井裏にある窓のない空間。隠し部屋か?



グラバー園

Glover Garden

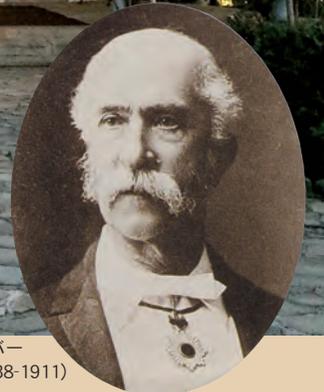
国重要文化財 旧グラバー住宅



ウィリアム・オルト
(William J. Alt, 1840-1908)



フレデリック・リンガー
(Frederick Ringer, 1838-1907)



トーマス・グラバー
(Thomas B. Glover, 1838-1911)

日本の近代化の父、 グラバーが暮らした旧宅

長崎の南山手地区、旧外国人居留地に
あるグラバー園。ここは、長崎の近代化
を語る上で重要な人物トーマス・ブレ
ク・グラバーが暮らした旧グラバー住宅
のほか、旧リンガー住宅、旧オルト住宅
の3つの重要文化財が建築当時の位置
に建ち並んでいます。またこれらの周囲
には長崎市内に点在していた6棟の洋
風建築が移築復元されています。

旧グラバー住宅は、1863年(文久
3)に建てられた現存する日本最古の洋
風建築。国の重要文化財に指定され、世
界遺産候補「明治日本の産業革命遺産」
の構成資産にも挙げられています。

正面の噴水が印象的な旧オルト住
宅は、オルト商會を設立し、製茶業を
営んでいたウィリアム・ジョン・オルト
の旧邸で、1865年(慶応元)に建て
られました。また、旧リンガー住宅は、
フレデリック・リンガーが明治元年頃
に建てたとされている住宅です。リン
ガーは、グラバー商會退職後、大浦海
岸通りにホーム・リンガー商會を設立
し、明治から昭和初期にかけて製茶業
や製粉、石油備蓄、発電、貿易など幅広
い事業を行った人物です。



国重要文化財 旧オルト住宅



国重要文化財 旧リンガー住宅

三菱重工業(株) Museum of Nagasaki Shipyard 長崎造船所史料館

三菱重工業発祥の長崎造船所は、2007年に創業150年を迎えた。造船所内に現存する最古の赤レンガ建物には長崎造船所の歴史とともに、日本における近代化や技術の進歩を物語る品々が展示されている

写真右端が1834年(天保5)に長崎へ輸入された「泳気鐘」(イギリス製)

**世界遺産候補の価値ある
建物の中にさらに貴重な
歴史ある品々を展示**

大浦地区の対岸一帯を占める三菱重工業株式会社長崎造船所のなかには、屋根を支える小屋組みトラスが特徴的なレンガ建築があります。これが長崎造船所史料館です(以下、史料館)。この建物は世界遺産候補にも挙げられている旧木型場で、建造は1898年(明治31)7月。三菱造船所の鋳物工場に併設されたもので、長崎造船所内に現存する最も古い建物です。史料館天井には運搬用のレールなどがあり、昔の木型場の名残があります。1945年(昭和20)の原爆投下の際にも爆風は受けましたが、建物への大きな被害はまぬがれました。110年以上の風雪に磨かれた赤煉瓦は、日本近代工業の黎明期を今に伝えてくれます。

史料館チーフの稲岡裕子総務課主任にお話をうかがうと、「この史料館は、長崎造船所が日本の近代化に果たした役割を永く後世に残そうと、1985年(昭和60)10月に開設し、2007年(平成19)から一般にも公開しました。館内は13コーナーに分かれ、1857年(安政4)前身の長崎鋳鉄所設立から現在まで、技術の進歩を物語る品々や写真など約900点を展示し、長崎造船所の歴史の変遷を紹介



映像コーナー近くにある創始者岩崎弥太郎の像

外国の技術を素直に受け入れて日本人が磨きをかけていった

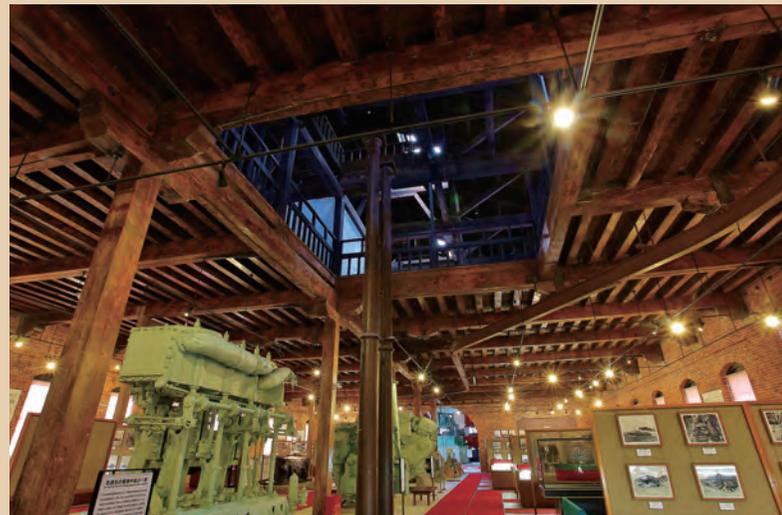
館内には長崎造船所の船舶関係の資料とともに、役目を終えた古い機械類なども多く展示しています。その中でも珍しいものが、人間が1〜2名入れるほどの鉄の箱のような不思議な形をした「泳気鐘」です。1858年(安政5)に長崎鋳鉄所を造る際の護岸工事に使われたイギリス製の潜水用具で、中に技師が入って海底の様子を調べたものです。その隣には、1857年(安政4)にオランダから輸入した「日本最

古の工作機械(堅削盤) (国重要文化財)、その向こうには「国産第一陸用蒸気タービン」が展示されています。「最初は日本には近代洋式造船の技術はありませんから、交易があったオランダ海軍のハルデスは長崎鋳鉄所を建てるために煉瓦を焼くところから指導をしています。外国の技術を素直に受け入れて出来た近代的な工場の先駆けだったのです」(稲岡さん)。

数々の展示資料は、長崎造船所の歴史を象徴するとともに、長崎が日本の近代工業の始まりの地なのだということを実感させてくれます。



解説していただいた稲岡裕子主任(「日本最古の工作機械」の前にて)



天井の運搬軌条(レール)が木型場であった頃の様子を物語る



戦艦武蔵コーナー



わが国初の船型試験場・砲の浦水槽で使用していた抵抗動力計(1907~1958)



三菱重工業(株) 長崎造船所史料館

〒850-8610 長崎市砲の浦町1番1号
TEL: 095-828-4134
URL: <http://www.mhi.co.jp/company/facilities/history/>
■開館時間 9:00~16:30(入館は16:00まで) ※要電話予約
■休館日 土・日曜、祝日および長崎造船所休業日
■観覧料 無料
■駐車場 自家用車は三菱病院駐車場利用



1908年(明治41)製の「国産第1号陸用蒸気タービン」



建設当時の煉瓦壁も見ることができる



昭和46年7月 端島銀座(※)

クルーズ船出航から20分ほどで軍艦島に接近。眼前に広がる廃墟の島は、静寂の中にも大きな存在感があり、その迫力に圧倒されます。上陸後は、第1広場から第3広場までを解説つきで見学。コンクリートやレンガ建築遺構のほか、神社やプール、共同浴場など、住民たちの生活の痕跡もうかがえます。「小さな島にたくさんの方が住んでいましたが、みんな仲良しで、助け合っていました。祭りや運動会はとも賑わっていました。たよ」とガイドの方からは、出身ならではの思い出を語っていただきました。当時の炭鉱マンは、過酷で危険な仕事の見返りとして給与は高く、住民の生活水準も本土よりもずっと高かったといえます。軍艦島は、時代の

炭鉱マンたちの汗で築かれた生活や文化こそが産業遺産

最先端に行く近代都市だったのです。

長崎半島の先端、野母崎の「軍艦島資料館」では、角力灘をはさんで約4km先に軍艦島を眺望することができます。館内には軍艦島の空撮写真、往時の島民の暮らしや炭鉱の様子を撮った数々の写真パネル、島に関するさまざまな資料など約250点のほか、軍艦島の歴史がわかる映像コーナーも設置されています。最盛期の写真に写る炭鉱マンとその家族の表情は生命力にあふれ、まさに日本のエネルギーを支えていた力強さと誇りが感じられます。近代日本の発展を支えた炭鉱マンたちの汗、彼らの生活や文化あってこそその近代化産業遺産なのだと感じさせられる資料館です。



昭和46年頃 ブランコで遊ぶ子どもたち(※)



昭和40年代 35000ト出炭記念(※)



昭和40年代 ポタを積んだトロッコ(※)



展望デッキから約4km先の軍艦島を望む



石炭や島の模型などもある



往時を物語る地図資料やパネル類



軍艦島資料館

〒851-0505 長崎市野母町568-1
野母崎総合運動公園管理棟2階
TEL: 095-893-0077 (長崎南商工会野母崎支所)
095-829-1152 (長崎市文化観光総務課)
URL: <http://www.shokokai.or.jp/42/423041S0043/index.htm>
■開館時間 9:00~17:00
■休館日 年末年始(12/29~1/3)
■観覧料 無料
■駐車場 無料(普通車約50台)



7 (※)資料協力:NPO法人軍艦島を世界遺産にする会 理事長 坂本道徳氏

軍艦島

Gunkanjima

廃墟となった産業遺産が伝えるもの

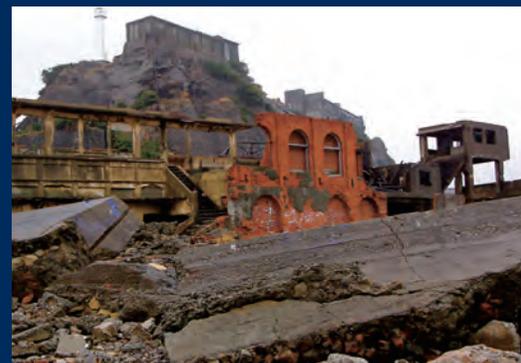
「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の中でも注目度の高い軍艦島



かつての炭鉱の繁栄を今に伝える軍艦島

1974年(昭和49)の閉山とともに無人島となった軍艦島(「端島炭坑跡」国指定史跡)ですが、明治日本の産業革命遺産「構成資産のひとつ」として世界遺産候補となっています。現在は一般観光客も島の一部に上陸して見学できるように整備され、長崎港や野母崎地区から出るクルーズ船の人気も高まっています。

軍艦島は、正式には端島といい、周囲1.2kmの小さな半人工島。島内に鉄筋コンクリート製高層アパートが林立する様はまさに要塞で、シルエットが戦艦「土佐」に似ていたことから軍艦島と呼ばれるようになりました。最盛期には5千人以上の人が暮らし、日本一の人口密度を誇りました。閉山後は、風雨や高波によって建造物は徐々に崩壊。朽ちていく建物群が小さな島に密集するという異様な姿は、いつしか多くの人々の心を惹きつけるようになりました。



日本の近代石炭産業の原点

日本で最初の蒸気機関を利用した西洋式堅坑
高島から全国に炭坑開発技術が広まった

高島では、端島よりも約20年早い1868年(慶応4)、佐賀藩とグラバー商会が共同でわが国初の蒸気機関による西洋式堅坑を開きました。その後、経営は三菱に移りました。高島炭鉱は、端島を加え、日本の近代石炭産業の先駆けとなったのです。高島港近くには「長崎市高島石炭資料館」があります。長崎造船所初の鉄製汽船「夕顔丸」の羅針盤と模型が

冒頭にあります。夕顔丸は1887年(明治20)に長崎造船所で建造され、1962年(昭和37)に廃船となるまでの74年間、長崎港内外で石炭や人を運びました。その奥には、機器類、衣服などとあわせ、採炭現場の再現展示もされており、小さな資料館ながら見応えは充分です。



正面の広場には炭坑で使用されていた坑内バッテリー機関車や2t炭車のほか、軍艦島の模型も展示



昭和61年に閉山した高島炭鉱が操業していた頃の道具などが多数展示されている

資料館から徒歩20分ほどのところには、高島炭鉱の歴史を象徴する「北溪井坑跡(国指定史跡)」があります。日本初の蒸気機関を導入した西洋式採炭法は生産力を飛躍的に向上させ、その技術は筑豊や北海道など全国の炭坑に広まりました。さらに「北溪井坑跡」から徒歩で5分、南風泊漁港横の低い丘には高島の



炭鉱の開発にあたったトーマス・グラバーの別邸跡もあります。



洋館づくりの「高島炭坑職員クラブ」の模型は、華やかだったころの高島の様子を伝えてくれる

九州最後の炭鉱・池島と炭鉱遺構が残る崎戸

長崎市郊外の出津文化村の一角に「長崎市外海歴史民俗資料館」があります。館内の3つの展示室のなかで1階の展示室1では、西彼杵半島沖合にあった池島炭鉱の資料が展示されています。池島炭鉱は九州で最後まで操業を続けていた炭鉱で、閉山は2001年(平成13)。中央には閉山式で壇上に飾られた記念の石炭が展示され、その奥には、石炭採掘用の掘進機の部品や、水圧をかけて天井の岩盤を支える採炭作業の安全を確保するための機械など、石炭採掘に

関する比較的新しい時期の資料を見ることが出来ます。

西海市崎戸町もかつて炭鉱で栄えた島でした。「西海市崎戸歴史民俗資料館」では、崎戸が炭鉱で賑わっていた頃の写真や資料など町の産業史が展示されており、館の職員の方が当時の様子などを詳しく解説します。また崎戸は島内各所に「福浦坑巻揚機庫跡」などの炭鉱遺構が残っていることも特徴で、資料館正面には3つの坑口の1つである「蠣浦坑(1坑跡)」と煙突を見ることが出来ます。



外海歴史民俗資料館内にある池島炭鉱の展示コーナー



池島炭鉱で使われていた石炭採掘用の掘進機ロードヘッド



蠣浦坑跡の煙突



崎戸での採炭の現場が再現されている



崎戸歴史民俗資料館内にある炭鉱の展示コーナー



長崎市外海歴史民俗資料館

〒851-2322 長崎市西出津町2800番地 TEL 0959-25-1188
URL : <http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p000837.html>

- 開館時間 9:00~17:00 ■休館日 年末年始(12/29~1/3)
- 観覧料 一般300(240)円、小中高生100(60)円
※()内は10名以上の団体割引料金
※長崎市ド・口神父記念館との共通入館料
- 駐車場 無料(30台)



西海市崎戸歴史民俗資料館

〒857-3101 西海市崎戸町蠣浦郷1224-5
TEL 0959-37-0257
URL : <http://www.city.saikai.nagasaki.jp/sightseeing/kankou/kakotonodeai.html>

- 開館時間 9:00~17:00
- 休館日 月曜、祝日、年末年始(12/29~1/3)
- 観覧料 無料
- 駐車場 無料(20台)



長崎市高島石炭資料館

〒851-1315 長崎市高島町2706-8
TEL 095-896-3110 (高島行政センター)
URL : <http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p000836.html>

- 開館時間 9:00~17:00
- 休館日 年末年始(12/29~1/3)
- 観覧料 無料
- 駐車場 無し



北松炭田の雄といわれた 世知原の松浦炭鉱

端島、高島、崎戸などの西彼炭田とともに、近代の石炭産業を支えたのが北松炭田です。なかでも世知原は県内で高島に次ぐ採炭量を誇り、1893年明治26の採掘以降、78年間で掘り出された石炭が約800万吨にのぼるともいわれています。

その世知原炭鉱の歴史を伝える「佐世保市世知原炭鉱資料館」は、1912年(大正元)に松浦炭鉱事務所として建てられたものです。県指定有形文化財の館内には、炭鉱労働者たちの作業服や工具類などが数多く展示されています。展示写真には炭鉱内で働く女性の姿もあり、資料館そばの殉職慰霊碑にも多数の女性の名前が確認できます。



石炭採掘現場で、作業員保護のため天井が落ちないように支えた自走枠

全国最大規模の 古写真コレクションを 収蔵・公開

「長崎大学附属図書館中央図書館(文教キャンパス)では、幕末・明治の長崎を撮影したものなど貴重な古写真類約7500点を収蔵し、国内最大規模を誇ります。なかでもオランダ軍医A・F・ポードインらによる「ポードインコレクション」528点(国の登録有形文化財)は特筆すべき存在で、同館では、写真画像・解説などをインターネットで公開する先進的な取り組みを行っています。また、倉場富三郎が長崎の画家に描かせた『グラバー図譜(日本西部及び南部魚類図譜)』も同館収蔵資料です。2013年(平成25)4月にリニューアルしたギャラリーでは、貴重な収蔵品の複製写真や関連資料などを展示しています。



幕末長崎のパノラマ写真

地域住民の手で 炭鉱の歴史を紹介

松浦市の「調川民俗資料館」は旧教職員住宅を活用したもので、建物改修から資料収集、展示作業にいたるまで地域の人々による手づくりで行われました。この調川地区には中興炭業江口鉱の炭鉱があり、資料館内の炭鉱コーナーには、地域の人が寄贈した炭鉱用作業服や道具などのほか、地元鍛冶職人が炭鉱鍛冶に刀鍛冶の技術を加味して作ったという「輪」もあり、石炭で賑わった時代を紹介しています。



県北に唯一現存する洋館として県の文化財に指定されている旧松浦炭鉱事務所(資料館建物)



幕末・明治期のステレオ写真(立体写真)や専用の装置であるステレオコーブなども収蔵

日本で3番目、 長崎の近代水道の 歴史を知る

1891年(明治24)、本河内高部ダムと浄水場が完成したことで、長崎は横浜、函館に次ぐ日本で3番目に近代水道が整備されたまちとなりました。長崎大水害などを経て「治水」への関心は高いものの、意外と知られていない長崎の水道史を教えてください。長崎の水道史を教えてください。長崎市上下水道局水道資料室「長崎市上下水道局倉田水樋室」です。江戸時代の倉田水樋(1673年完成)にはじまり、明治・大正・昭和のダム工事の図面、写真、機械類など、普段は目にすることができない約1200点の貴重な資料が展示されています。



世知原資料館の近くにある貴重な明治時代手掘りの坑口跡(松浦炭鉱第三坑口)



炭鉱で使用された道具や当時の写真などが多数展示されている調川民俗資料館



炭鉱鍛冶に刀鍛冶の特長を加えて作られた輪。パッキン代わりに狸の毛が使われている



本河内高部ダムの図面や外国製の器具類など長崎の近代水道史を物語る貴重な資料が保管・展示されている



江戸時代の倉田水樋(1673年完成)に使われた木製の水管

長崎大学附属図書館 (中央図書館ギャラリー 古写真展示コーナー)

〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学附属図書館内
TEL 095-819-2198
URL : <http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/visit/kengaku/>
■開館時間 平日8:30~22:00 土・日・祝日10:00-18:30
試験期土・日・祝日 10:00-20:00
休業期平日8:30-17:00 休業期9月平日8:30-20:00
休業期土・日・祝日10:00-17:00
■休館日 不定期のためHPにてご確認ください
■観覧料 無料 ■駐車場 無し



佐世保市世知原炭鉱資料館

〒859-6408 佐世保市世知原町栗迎83番地5
TEL 0956-24-1111(社会教育課)
URL : <http://www.city.sasebo.nagasaki.jp/www/contents/1118406433921/index.html>
■開館時間 9:00~17:00
■休館日 年末年始(12/29~1/3) ■観覧料 無料
■駐車場 無料(普通車5台)



長崎市上下水道局水道資料室 (東長崎浄水場)

〒851-0134 長崎市田中町608番地7 東長崎浄水場内
TEL 095-829-1203(上下水道局総務課)
URL : <http://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/150000/156000/p007123.html>
■開館時間 9:30~12:00、13:00~16:30 ※事前予約制
■休館日 土日曜、祝日、年末年始
■観覧料 無料 ■駐車場 無し



調川民俗資料館

〒859-4536 松浦市調川町下免136番地 調川公民館
TEL 0956-72-3062
URL : <http://www.city-matsuura.jp/www/contents/1306407416397/index.html>
■開館時間 8:30~17:15(調川公民館窓口で受付後見学可)
■休館日 土日曜、祝日、年末年始(12/29~1/3)
■観覧料 無料
■駐車場 無料(普通車10台)



明治日本の 国際通信拠点だった ことを示す場所

海底線史料館の建物は、1896年(明治29)7月、陸軍省臨時台湾電信建設部創立と同時に建築された電源舎で、4つの貯線槽(海底電信線貯蔵池)と敷設船との間のケーブル移動用動力源として1967年(昭和43)まで現役でした。明治の洋風建築技法による建物は外観が保存され、1977年(昭和52)から海底線事業の変遷を遺す史料館として開館。創業時のイギリス製動力装置など世界唯一の資料もあります。2008年(平成21)には経済産業省の近代化産業遺産に認定され、長崎が明治日本の国際通信拠点であったことを知る貴重な場所となっています。

(文責・齋藤義朗)



敷設船の資料なども多数展示されている



通信省海底電纜敷設船「小笠原丸」の竣工記念模型と遺留品(左ページのコラム参照)

国際貿易港・長崎を象徴する 貴重な遺構

旧香港上海銀行長崎支店の建物は、日本建築界の異才・下田菊太郎(1866-1931)の設計としては国内に数例しか現存しない遺構で、1904年(明治37)に竣工。長崎の洋館群では最大級、国際貿易港長崎の繁栄を象徴する銀行建築物です。老朽化で取り壊しが計画されたところ市民運動が起り、保存修理が決定。1990年(平成2)には国の重要文化財となりました。2014年(平成26)4月から、1階を銀行時代の展示と多目的ホール、2・3階で孫文と長崎出身の実業家・梅屋庄吉との国境を越えた友情、長崎の近代交流史などを展示するミュージアムとしてリニューアルオープンしました。

(文責・齋藤義朗)



1階は香港上海銀行時代の雰囲気伝える展示と多目的ホールになっている



2階と3階は「長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム」となっている

海底線史料館

〒850-0075 長崎県長崎市西泊町22-1
NTT-WEマリン長崎事務所内
TEL 095-865-5882
URL : <http://www.nttwem.co.jp/knowledge/historical/>
■開館時間 9:00~15:00 ※事前予約制
■休館日 土・日曜、祝祭日、年末年始(12/28~1/4)
■観覧料 無料
■駐車場 無料(普通車5台)



長崎市旧香港上海銀行長崎支店記念館 長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム

〒850-0921 長崎市松が枝町4番27号 TEL 095-827-8746
URL : <http://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/190001/192001/p000829.html>
■開館時間 9:00~17:00(入館は16:40まで)
■休館日 年末年始(12/29~1/3) ■駐車場 無し
■観覧料 一般300(240)円、小中学生150(90)円
※()内は15名以上の団体割引料金



「コラム」

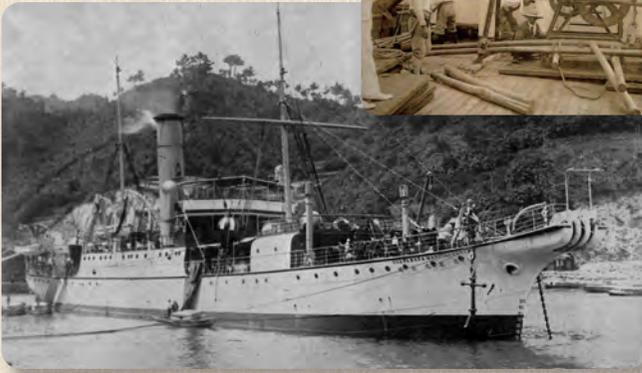
昭和四年の新聞で 紹介された 海底ケーブル保守

「小笠原丸便乗記」から

長崎県文化振興課 主任学芸員 齋藤義朗



(写真上) ホーリング・マシンで海底線積込中の「南洋丸」(1937年)
(写真下) 「小笠原丸」
※いずれも海底線史料館所蔵



それは今も昔も変わらないようで、1929年(昭和4)10月の「長崎日日新聞」(現・長崎新聞)では、10月7~9日にかけて平戸海峡^{※1}及び四国愛媛県の今治~大島間海底線修理を行った通信省海底電纜敷設船「小笠原丸」(1906年三菱長崎造船所で竣工、1404総トン)への同行取材記事が7回連載で特集されています。

海底ケーブルとは何か、不良箇所保守の手順などを紹介していくなかで、記者は「保守のため引き揚げられるケーブルが「腫物」に手をふれる様に静かに」扱われ、何時間も休み抜き作業が行われていることに驚いています。さらに記事では、瀬戸内海の保守業務などよりも太平洋のど真ん中での作業が遥かに過酷であることを紹介しています。

担当者の証言によれば、南太平洋ヤップ島^{※3}での修理工

事では、「あんな渺々たる太平洋ではその(不良箇所)引業者証が発見が大変です、多分あの時は二週間位かゝつたと思ひますが、大洋の真中で二週間もあつちにブラリこつちにブラリするのは、とても苦しいものです、(略)あの長い線ですから障害点が次から次へと出て来る有様で修理だけに一ヶ月という状況でした。船酔いに悩まされつつも現場の雰囲気を感じ、生の声を聞いた記者は、特集最終回で「私は益々海底電線の重要なこと……国家の休戚に關する重大なる政治上、外交上、軍事上の通信機関たることを感ぜずにはおられなかつた」と結んでいます。

さて、その後の「小笠原丸は、第二次世界大戦終戦に伴い、樺太からの引揚者の輸送を行っていた。のちに大横綱大鵬

と名づけた故・納谷幸喜氏



殉職者慰霊碑「海魂の碑」

※1 長崎県の九州本土と平戸島のあいだの海峡
※2 「小笠原丸便乗記」、「長崎日日新聞」1929年(昭和4)10月19・20・23-27日(朝刊)長崎市立図書館商用データベースより
※3 現ミクロネシア連邦ヤップ州



日本の経済金融史からみても貴重な資料が展示されている

伊王島灯台は、1866年(慶応2)締結の「改税約書」第11条を機に整備された日本初の近代洋式灯台のひとつで、わが国初の鉄造六角形洋式灯台でした。初点灯は1870年(明治3)6月。原爆被害のため1954年(昭和29)に四角形灯台となりましたが、2003年(平成15)に初代灯台が外形復元されました。記念館は1877年(明治10)建造の旧吏員退息所(県指定有形文化財、近代化産業遺産)で、設計者は初代灯台・退息所ともスコットランド出身のお雇い外国人R・H・ブランドン。平屋建て、椽瓦葺き、日本最古の無筋コンクリート造の館内は、灯台記念館となっています。

近代日本の金融経済史と長崎の歴史が重なる

江戸時代、俵物役所があった地に建つ十八銀行本店。前身の「立誠会社」は、1872年(明治5)に公布された国立銀行条例の参考にされるなど、明治日本における近代商業銀行の先駆けでした。本店3階にある「十八銀行史料展示室」は、十八銀行の創立百周年を記念して開設されたもので、十八銀行と長崎の歴史を銀行所蔵史料・写真やパネルなどとともに紹介しています。当時大蔵卿だった大隈重信のサインがある第十八国立銀行創立承認状(1877年(明治10))や第十八国立銀行時代に発行した紙幣など、貴重な資料の宝庫となっています。

長崎にかんする数々の貴重な歴史資料を収蔵・展示する「長崎歴史文化博物館」。幕末・明治の長崎については、「近代化の魁・長崎」長崎発、西洋の知と技」と題して2階で常設展示を行っています。写真、造船、印刷、電信、上海航路など、各分野での近代化の歴史を貴重な資料をもとに紹介する一方、上野彦馬撮影局の再現コーナーや、本木昌造の活版印刷植字、国際通信のモールス符号発信など、体験を通して楽しみながら幕末・明治の長崎の歴史や文化にふれることができます。



火縄銃から洋式銃へ移り変わる過程を紹介したコーナー



近代活版印刷やモールス符号発信の仕組みを体験できるコーナー



第十八国立銀行発行紙幣。上の2点が米国で印刷、下2点は国内で印刷

近代化の先駆けだった幕末・明治の長崎も紹介



初代の形に復元された伊王島灯台(三代目)。隣接して初代灯台の六角形石組みも残る

(文責・齋藤義明)

伊王島灯台は、1866年(慶応2)締結の「改税約書」第11条を機に整備された日本初の近代洋式灯台のひとつで、わが国初の鉄造六角形洋式灯台でした。初点灯は1870年(明治3)6月。原爆被害のため1954年(昭和29)に四角形灯台となりましたが、2003年(平成15)に初代灯台が外形復元されました。記念館は1877年(明治10)建造の旧吏員退息所(県指定有形文化財、近代化産業遺産)で、設計者は初代灯台・退息所ともスコットランド出身のお雇い外国人R・H・ブランドン。平屋建て、椽瓦葺き、日本最古の無筋コンクリート造の館内は、灯台記念館となっています。



建築物としても貴重な記念館



館内には灯台の資料のほか、灯台に使用された実物の灯器も展示されている。写真は四等閃光レンズ(1918年、フランス製)

しかし、予算要求の経緯から名称は「野母崎灯台」のままでした(1953年「樺島灯台」に名称変更)。1993年(平成5)、旧灯台吏員退息所を利用した資料館が開館し、古い灯器や機器類などが展示されているほか、毎年4月末には灯台内部の一般公開も行われています。

(文責・齋藤義明)



灯台用灯ろうなど資料館内の展示



樺島灯台

※「灯台予定位置二関スル件回答」JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C04016916900
公文備考 Q 通信・交通・気象 巻2の2(防衛省防衛研究所)

天草灘を見守る白亜の樺島灯台

樺島灯台は、1932年(昭和7)7月に初点灯した鉄筋コンクリート造、白色円形の灯台です。当初は野母崎に設置する計画でしたが、1929年(昭和4)1月の「島原海湾二出入スル船舶二対シテハ樺島ニ設置スルニ非ザレバ其ノ利用ノ範圍極メテ少シ」という海軍水路部の見解を受けて樺島に変更されています。

十八銀行史料展示室



〒850-0841 長崎市銅座町1番11号 十八銀行本店3階
TEL 095-824-1818 (代表)
URL : <http://www.18bank.co.jp/>
■開館時間 9:00~15:00 ※事前予約制
■休館日 銀行営業日以外
■観覧料 無料
■駐車場 無し



長崎市伊王島灯台記念館



〒851-1201 長崎市伊王島町1丁目3240番1
TEL 095-898-2202 (やすらぎ伊王島)
URL : <http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/824000/p000838.html>
■開館時間 9:00~17:00
■休館日 月曜(祝日・休日の場合は、以後最初の休日でない日)、年末年始(12/31・1/1)
■観覧料 無料 ■駐車場 無し



長崎歴史文化博物館



常設展示室
〒850-0007 長崎市立山1-1-1 TEL 095-818-8366
URL : <http://www.nmhc.jp/>
■開館時間 8:30~19:00
■休館日 第3火曜(祝日の場合は翌日)
■観覧料 一般600(480)円、小中高生300(240)円
※()内は15名以上の団体割引料金※企画展は別料金。
※長崎県内の小中学生は無料。そのほか各種減免制度有。
■駐車場 有料(普通車62台、大型バス5台)



樺島灯台資料館



〒851-0507 長崎市野母崎樺島町字大山
TEL 095-893-1111 (野母崎行政センター)
■開館時間 9:00~17:00
■休館日 年末年始(12/28~1/3)
■観覧料 無料
■駐車場 無料(普通車10台ほか)



ミュージアムの人々 ①

長崎南山手美術館

Nagasaki Minamiyamate Museum

館長 常川和宏さん

Kazuhiro Tsunekawa



美術品を通して長崎の文化を
より楽しんでもらいたい。

毎日、多くの観光客が往来するグラバー園入口正面にある長崎南山手美術館。館長の常川和宏さんは、長崎市出身で元サラリーマン。定年退職後、自宅にあった古美術品を多くの人に見ていただきたいと5年前に美術館&カフェをオープンしました。

「展示品のほとんどは先祖が集めたものです。小さい頃からいろんなものがあるなあと思っていたのですが、調べてみると、そのほとんどが明治時代半ば以前の長崎にゆかりのあるものでした。長崎の輝かしい歴史の中で、祖先が大事に残してきた美術品・工芸品を長崎の人々に今一度再認識していただくと共に、長崎以外の方にも長崎をより深く知ってもらいたいとの思いから、美術館を開く決心をしました」

膨大なコレクションは書画や絵画を中心に1000点以上。特に南画や黄檗関係の作品数が多く、県外から研究者が調査に訪れることもあるそうです。取材にうかがったときは『坂本龍馬と長崎』と題した企画展が開催中でした。藤田紫香

が描いた龍馬の肖像画をはじめ、勝海舟や西郷隆盛の書のほか、長崎港全図や長崎奉行所西役所図、幕末の長崎の陶磁器（亀山焼や秋ノ浦焼）など、龍馬ファンならずとも目を見張るものばかり。常川さんの解説と共に、幕末の長崎に引き込まれてしまいます。

「季節ごとに展示内容をリニューアルしてみなさんにお見せしていますが、その入替作業はほとんど私一人で行っています。なかなか骨が折れますが、みなさんに見ていただいて、長崎の文化を楽しんでもらえればうれしいですね」

目標は、今よりも来館者数を増やすことと語る常川さん。今年5月9日までは『長崎の雪月花』と題して長崎に残された「雪月花」に関わる書や絵画・工芸品を展示中です。



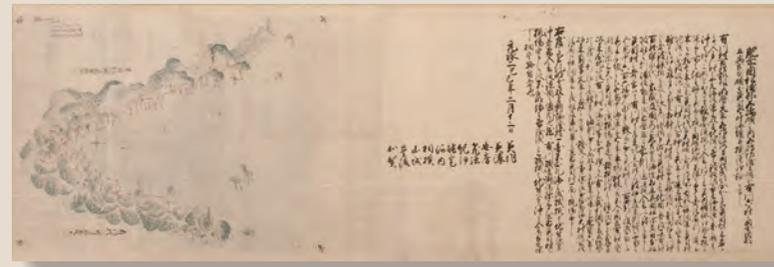
左から藤田紫筆の中岡慎太郎、坂本龍馬の肖像画、佐々木高行、西郷隆盛の書



龍馬も愛用したとされる亀山焼



住所:〒850-0931 長崎市南山手町4-3
TEL 095-870-7192
<http://www.minamiyamate-museum.jp/index.html>
■開館時間 10:00～17:30
■休館日 毎月16日
※展示替え期間等のための臨時休館日有
■観覧料 一般500円、中高生300円、小学生200円
※5名以上は団体割引あり
■駐車場 有料



幕府裁許状(有川湾浦絵図)(元禄2年)

この鯨賓館ミュージアムから一望できる有川湾では江戸時代初期に鯨漁が始まりました。有川湾では主に、網取式捕鯨がおこなわれていたとされ、鯨見山という鯨を見張った場所の地名が残っているほか、鯨供養塔等の史跡が多く存在します。

有川で鯨漁の隆盛を図ったのが江口甚右衛門という人物で、万治4年(1661)、父の逝去により17歳の若さで家督を継承しました。しかし、その翌年の寛文2年(1662)、五島藩の領地が福江領と富江領に分知されます。これに伴い、有川湾を挟んだ魚目と有川はそれぞれ富江領と福江領とな



幕府再裁許状(元禄3年)

江戸幕府により裁許が下された証拠となる重要な資料であり、当時の有川湾での漁業史を物語る大変貴重な逸品です。

元禄2年の幕府裁許状では、魚目方の主張を退け、海役に対する有川磯辺潮満ち際三尺迄の魚目側の狩猟は根拠がない、として諸国の通例どおり、磯猟は地付き次第、沖は入会ということで採決されました。また、元禄3年の幕府再裁許状では、元禄2年の裁許状の魚目側の解釈が再び論争を呼んだために、翌年、再び幕府から裁許状が下されたものです。

元禄2年の幕府裁許状では、魚目方の主張を退け、海役に対する有川磯辺潮満ち際三尺迄の魚目側の狩猟は根拠がない、として諸国の通例どおり、磯猟は地付き次第、沖は入会ということで採決されました。また、元禄3年の幕府再裁許状では、元禄2年の裁許状の魚目側の解釈が再び論争を呼んだために、翌年、再び幕府から裁許状が下されたものです。

ミュージアム

逸品紹介

新上五島町鯨賓館ミュージアムは島の玄関口である有川港多目的ターミナル内に併設された博物館です。2014年(平成26)12月に開館10周年を迎えました。その名のとおり主に「鯨」に関する資料を展示しているほか、新上五島町内にある29の教会群を紹介するパネルや本町出身の第50代横綱佐田の山関の資料を展示しています。鯨に関わる収蔵品のほか、古文書や民具等の資料を中心に約3千点を収集・保管しています。

新上五島町鯨賓館ミュージアム

り、有川湾内での漁業権を争うこととなります。ここから約30年に渡る漁場の海境争いが続きます。甚右衛門は、福江・富江の両藩に訴えて善処方を願い出しましたが、なかなか決着の見通しが立たず、江戸控訴に踏み切ります。その際、江戸幕府の評定所に資料として提出されたのが有川湾浦絵図です。これは幕府の指示によって長崎桶屋町の絵師溝口七郎兵衛に描かせた浦絵図で、評定所はこの絵図の裏に裁許文を認めて渡したといわれています。

クロミンククジラの標本

有川港ターミナルの待合スペースには、クロミンククジラの骨格標本と実物大模型が展示されています。骨格標本は、平成7年(1995)に日本の調査船で捕獲された成熟したメスで、体長9.35m、体重7.8トンでした。その横に並ぶ模型は、体長9.6mのメスの実物大です。

この鯨種は南半球の海洋に産し、夏季(12月～3月)にパツクアイス近くまで分布して、ナンキョクオキアミを主とする餌生物を食べて過ごし、冬季(7～9月)には熱帯海域で繁殖し、その間を毎年回遊して生活しています。本種はシロナガスクジラの減少とともに資源が急激に増加し、1970年代から南極海捕鯨の対象でした。



クロミンククジラの骨格標本と実物大模型



「同館主査 中山利朗」

※海水が凍結してきた水

住所:〒857-4211 南松浦郡新上五島町有川郷578-36 有川港ターミナル1F
TEL : 0959-42-0180
URL : <http://k1low01.town.shinkamigoto.nagasaki.jp/geihinkan/museum/index.html>
■開館時間 9:00～17:00
■休館日 年末年始(12/29～1/3)
■観覧料 一般200(150)円、小・中学生100(50)円 ()内は15名以上の団体割引料金
■駐車場 無料(普通車200台、障害者用3台)



(左上)大きなレトリバーから小さなトイプードルまで、人なつっこい犬たちとのひととき
(右上)左側の「共生の樹」ではたくさんの小動物とふれあえます



長崎バイオパーク入口左手の黄色い建物を指します



余裕で手のひらに乗るパンダマウス

また犬たちの部屋も設けられています。この部屋は中庭にも続いていて、暖かな日差しをあびながら、優しい目をした10種類以上の犬たちに囲まれ、身も心もすっかりリラックスできました。

猫たちの部屋では、大きなソファにゆったりと座って、ロシアンブルーやスコティッシュフールドなどのたくさんの猫たちと過ごせる癒しの空間が広がります。

「共生の樹」たくさんのウサギやモルモットとともに、珍しいタイハクオオムやワシミミズク、グリーンイグアナともふれあえます。

今回、NBCラジオパーソナリティの栗原優美さんが訪ねたのは、長崎バイオパークに新設されたペットアニマルワールド「PAW(パウ)」。犬や猫、ウサギなどを中心に、直接動物たちとふれあえる空間です。

PAWを堪能したあとに向かったのがカバの池。日本で初めて人工哺育に成功し、泳げないカバとして有名になったモモをはじめ、お父さんのドン、お母さんのノンノン、旦那さんの出目太の4頭がいます。ここではえさやり体験に挑戦しました。大きな口をあけてエサをねだるドンの口の中にキャベツが見事に入り、栗原さんも大満足。たくさんの動物たちに癒された一日でした。

カバのえさやり体験は土日祝日11:30と15:30の2回。参加料100円。記念のオリジナル動物カード付き

突然コモンマーモセットが肩に乗ってきておっかなびっくりの栗原優美さん



自慢の体験プログラム かわいい動物たちとふれあう空間が 新たに誕生 ——長崎バイオパーク ペットアニマルワールド「PAW(パウ)」

ミュージアムの人々 ② さかきばら郷土史料館

Sakakibara Museum of Folklore

館長 榊原幸子さん
Sachiko Sakakibara



人びとは
一まいの紙
一まいの布
そして
一つひとつの 道具に
どれほどの 思いを
込めて その
いとなみを
続けてきたこと
だろう

物が語りかける故郷のストーリー。 昔の物と対話し、今を知る。

人々が物を捨て始めた時代に、その価値を見据え集め始めた人がいました。「皆様に支えられて、主人が戦後50年間をかけて集めた昭和の懐かしい生活道具類は、今やその時代を知る貴重な史料となりました」と語るのは、館長である榊原幸子さん。平成元年、島原の歴史と生活を学ぶ施設になればと、榊原武之さん・幸子さん夫婦によって開館しました。私財を投じて建てられた見事な蔵造りは、島原城下のまち並みに配慮した建物として「島原市まち並み景観賞」も受賞しています。

館内では島原の乱や島原大変、島原藩屋敷図、伊能忠敬の地図制作に関する史料に加え、ご主人が集めた懐かしい民具として、鍬から網籠、手回し洗濯機、衣類の皺をのばす粘、医療器具まで、どれも懐かしく興味深い道具類が所狭しと並んでいます。「あかり」のコーナーでは、火打石から行燈、ランプ、電球まで、実際に使われていた物が展示され、時代を追ったエネルギーの移り変わりも知ることができます。そして防空頭巾や配給切符、軍服などを展示した「戦争の記録」コーナーも。

「道具類は先人が汗を流し、知恵を絞り、そして戦争という苦しい時代を乗り越え、人々がどう生きてきたのかを語りかけてくれます。その物語を、次の世代である子どもたちへ伝えていきたいものです」

幸子さんは学校教育への活動にも協力し、史料館で子ども達に歴史の説明も行っています。その活動が認められ県地域文化章、島原半島文化章を受賞。「人は有限でいずれ去りますが、物はいつまでもその時代を語りかけてくれます」。物や史料

に秘められた、ひとつの物語を、この史料館で見つけてみませんか？



蔵造りで吹き抜けの広い館内



天草・島原の乱に関する展示(左)と島原大変に関する展示(右)



教育の歴史(手前)と「戦争の記録」コーナー(奥)



住所:〒855-0053 島原市城西中の丁2034
TEL:0957-63-1255
URL:http://tabinaga.jp/museum/119/119.html
■開館時間 9:30 ~ 17:00(土日曜、祝日のみ開館)
■休館日 平日
■観覧料 一般200(160)円 小中高生50円
※()内は30名以上の団体割引料金
■駐車場 無料(武家屋敷駐車場利用)



住所:〒851-3302 西海市西彼町中山郷2291-1
TEL:0959-27-1090
URL:http://www.biopark.co.jp/
■開館時間 長崎バイオパーク9:00 ~ 17:00(入園は16:00まで)
PAW 9:30 ~ 17:00(入園は16:30まで)
■休館日 無休
■観覧料 PAW単体入場:500円
バイオパークセット券:大人2000円
中高生1400円、3歳~小学生1100円
BIOPASS会員:入場無料
■駐車場 無料(800台)

ウェブサイト「ミュージアム県ながさき」と「旅する長崎学」などが合併し、より便利になります。
長崎歴史・文化ポータルサイト
「ながさき歴史・文化ネット」の開設

URL: <http://nagasaki-bunkanet.jp>

県内の文化情報を集約し、長崎の文化の魅力に触れる機会を増やすためウェブサイト「ながさき歴史・文化ネット」を3月下旬にオープンします。長崎県内のミュージアム・文化ホールを施設分類やエリア、分野で検索する事ができ、各施設の基本情報のほか、展覧会や講演会などのイベント情報も見ることが出来ます。県内ミュージアムの見学やイベントをお調べの際にご活用ください。

また、同じ機能を備えたスマートフォン用のアプリ「ながさきミュージアムネット」も3月末にアップしますので、併せてご利用ください。

■問い合わせ先: 長崎県文化振興課
 TEL: 095-895-2762

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の推薦が決定しました

16世紀以降の日本において、キリスト教がどのように伝わり、受け入れられたかという世界でも類を見ない独自の過程を物語る「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、キリシタン大名の「城跡」、禁教時代の「集落」、「復活後に建てられた様々なスタイルの教会堂」という14の構成資産からなります。この「長崎の教会群」が1月16日に世界文化遺産候補として、国からユネスコへ推薦されることが決定し、1月22日に推薦書がユネスコ世界遺産センターへ提出されました。今後、夏から秋頃にユネスコの諮問機関であるイコモスの現地調査が行われ、平成28年6月頃の世界遺産委員会で登録が審議される予定です。



浦上キリシタン資料館グランドオープン

平成26年(2014)5月にプレオープンした浦上キリシタン資料館が、平成27年1月にグランドオープンしました。浦上に潜伏していたキリシタンたちが、慶応元年(1865)、大浦天主堂でプティジャン神父に信仰を告白し、その後「浦上四番崩れ」という厳しい迫害を受け、それを乗り越えたという歴史を伝え、さらには原爆投下による犠牲を二度と繰り返さない、平和を願うという趣旨から設立されたものです。浦上のキリシタン史を中心とした、さま

ざまな企画展が計画され、信徒発見150周年記念企画展「ローマとの再会」(3月1日～5月下旬)や、浦上の人々が流された津和野の歴史を伝える特別展「津和野に流された浦上キリシタン」(3月8日～4月26日)が開催されています。



キリシタン禁制の高札

浦上キリシタン資料館

■入館料: 無料 ■開館時間: 10時～17時
 ■休館日: 月曜日(但し祝日の場合はその翌日)、
 〒852-8116 長崎市平和町11-19 グロリアヒルズ1階
 TEL095-807-5646

長崎歴史文化博物館総入館者500万人、長崎県美術館400万人達成

平成17年(2005)11月3日に長崎県と長崎市が共同で設置した長崎歴史文化博物館では、平成26年(2014)12月10日に総入館者数500万人を達成し、記念セレモニーが開催されました。同じく、まもなく10周年を迎える長崎県美術館(H17年4月23日開館)でも、平成27年2月7日に総入館者数が400万人となりました。

これからも、県内外の皆様から親しまれる施設となるよう、設置者、指定管理者一体となって運営してまいります。

本誌は、長崎県内のミュージアムの一体的な情報発信を目的として平成24年度に創刊しました。来年度も引き続き発行の予定です。県内ミュージアムに関する情報等ございましたらご提供下さい。
 ■連絡先: 長崎県企画振興部
 文化観光物産局文化振興課
 TEL: 095-895-2762



建物探訪
昭和の学び舎をリノベーションした
総檜造りの木造校舎
雲仙市歴史資料館国見展示館

江戸時代から続く武家町。美しい矢竹の生垣や茅葺、長屋門の石垣が残る「雲仙市国見町神代小路地区」には、国指定重要文化財である佐賀鍋島藩神代領主・鍋島氏の陣屋敷跡「鍋島邸」などが保存され、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

歴史と文化を伝承するこの保存地区の一面に、国見展示館があります。建物は、昭和23年に設立した旧神代村立神代中学校を再利用したもので、木造瓦葺の校舎が昭和の懐かしさを伝えています。当時は3棟の校舎が並んで建っていたそうですが、そのうちの2棟をリノベーション。1棟目の南側展示館では、島原半島最古の石器をはじめ、1000点を超える貴重な出土品などを紹介。2棟目の北側展示館は、当時の校舎を改修復元した、昭和の学び舎が再現されています。

昭和40年まで利用されてきた校舎は総檜造り。閉校後は民間の会社の倉庫・託児所になっていましたが、保存地区選定を機に平成19年から約3年かけて修復されました。柱や天井板、気泡が入った窓ガラスに至るまで利用できるものはすべて使われています。磨き上げられた廊下や古傷が入った柱、生徒が落書きした板壁もあれば、天井に投げつけた雑巾跡、ボール跡なども残され、それを見ているだけで当時の子ども達の声が聞こえてきそうです。島原半島で昭和の木造校舎が現地にそのまま残るのはここだけとあり、校舎自体が展示品と言えるでしょう。



住所: 〒859-1303 雲仙市国見町神代丙178-1 TEL 0957-78-2334
 URL: http://www.city.unzen.nagasaki.jp/info/prev.asp?fol_id=10066
 ■開館時間 9:00～17:00
 ■休館日 土日曜・祝日 ※職員在館の場合は見学可能 ※要連絡
 ■観覧料 無料 ■駐車場 無料(普通車10台)



教室には近郊の小学校などから譲り受けた木製の机や椅子、実際に使われていたオルガンや教材などが並んでいます。